



= Breeze from the field of that ch-grass =

2021年11月5日 森林塾青水 事務局便り **茅風通信64号** 



上ノ原(10月3日撮影・清水英毅)

## 【6月】

- 1日 外部委託していた茅場の除伐、刈払い作業が完工。延べ7ヘクタールを整備し茅場も拡張。
- 4日 在宅講座 2021-1「リトリートについて」 発行。※感染症対策による自粛期間中、上ノ原 での活動を補完する目的で、会員作成のテキス ト「在宅講座」を昨年に引き続き発行する。
- 7日 在宅講座 2021-2「奥利根野鳥観察ルポ」 発行。

#### 【7月】

- ◆ 4日 全国草原ネットワーク総会にリモート参加。
- 17日、18日 防火帯刈払いを実施(本紙2頁)。 ※15名の申し込みがあったが、感染症の蔓延 状況を考慮して会員参加の行事としては中止し、 幹事等8名(うち現地2名)で作業のみ実施。
- 獣害対策として試験運用していた鹿罠3基のうち2基で初めての捕獲確認。
- 赤谷プロジェクトの地域協議会が藤原で開催され、大学教員など15名が上ノ原来訪、交流。
- 25日 「茅風通信」63号発行。

#### 【8月】

- 22日 在宅講座 2021 3「自伐型林業について」発行
- 26日 在宅講座2021-4「循環型プラットホームLoopについて」発行

| ■ 2021 定例活動③2                          |
|--|
|  |
| 「防火帯刈払い」                               |
|  |
| ◆開催報告(草野 洋)                            |
| ■ 2021 定例活動④・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3 |
| 7 = 11 = 11 = 11 = 1                   |
| 「リトリート体験・ミズナラ林整備」                      |
| ◆開催報告(草野 洋)                            |
| ■「在宅講座」概要紹介・・・・・・・5                    |
|  |
| ◆第1回「リトリートについて」                        |
| ◆第2回「奥利根野鳥観察ルポ」                        |
| ◆第3回「自伐型林業について」                        |
|  |
| ◆第4回「循環型プラットホームLoopについて」               |
| ◆第5回「パーマカルチャーとは(その1)」                  |
| ■ 藤原だより(北山 郁人)・・・・・・・・・・・7             |

■ 野守のつぶやき(清水 英毅)・・・・・・・・8

編集後記(敬称略)

■ 6月~10月の活動報告(事務局)・・・・・・・・・・・・・・・・・1

## 【9月】

- 11日 在宅講座 2021 5「パーマカルチャーとは(その1)」発行
- 26日、27日 全国草原サミット、シンポジウムが東伊豆で開催され、リモート参加。
- 草原サミットに参加していた和歌山大学の学生 グループ「生石高原むすびや弥右衛門茅葺プロ ジェクト」と情報交換。相互訪問も含めて、交 流を検討することに。
- 北山塾長が2年前から栽培に挑戦していた原木 舞茸をはじめて収穫。(本紙7頁「藤原だより」)

## 【10月】

- 2日、3日 2021年度第1回目の公募プログラム「上ノ原リトリート体験~ミズナラ林の間伐とキノコの駒打ち」を実施。参加者15名。 林業の一端に触れ、リトリートを体験した。(時間切れでキノコ駒打ちは割愛。**本紙3頁**)
- 30日、31日 茅 刈り実施。みなかみ 町民2名、ほか群馬 県民6名を含む3 3名が参加した。 (報告記事は次号に 掲載)



(以上)

# ■2021定例活動③ 「防火帯刈り払い」

報告 草野 洋

7月9日、首都圏に4回目の緊急事態宣言・まん延防止等特別措置が発令されるとの決定を受けて、翌日、急遽Web 幹事会を開催。すでに募集を締め切り15名が参加することになっていた本年最初の塾の活動「防火帯刈払・歩道整備」の実施方法を変更することにした。東京居住者等の参加者には辞退をお願いし、幹事及び刈払経験者のみが出役することになった。

参加を表明いただいていた会員には大変気の毒で 申し訳ない思いである。防火帯の刈り払いは来春の



野焼きでであるク1施域にのがた業のででは異る1日かいをでのいるので日、の他計を必要ながが、当会山元組の大不はチでリ7に下618人のでおり、とクんので日、の他計の大不はチでリ7に下618人のにな要なンいス月実流名名名

作業前に恒例の

山の口開き神事を実施。北山塾長が、

東に武尊、西には朝日、谷川の峰々を臨む美し地 と上ノ原の風景を盛り込んだ祝詞を奏上、新型コロ ナ感染症の一日も早い終息と一年の安全、そして自 然の恵みの多いこと祈願した(写真・上)。

その後、刈り払いを開始、今年のススキの成長は 平年並み、ただ、毎年たくさん見られる草花とヒメ シジミが少なくちょっと寂しい。それでもせっかく 咲いたホタルブクロやトリアシショウマ、オカトラ ノオに謝りながらエンジンをふかす。梅雨明けの炎 天下の刈り払いはコロナ疲れの身体に応える。たび たびの水分補給をしながら午後4時ごろには大方の 作業は終了した。









ホタルブクロ(左)とアザミの蜜を吸うアサギマダラ

その夜の宿はロッ デたかね。夕食後、 宿の近くの小川を 飛翔するゲンジボタ ルホタルを見て過ご した。

2日目は、朝一番に全員で茅場周囲を点検(**写真右**)したところ、茅場内にしたところにあった場にしたところにのずり残しがあったので2時間ほどので1時間にあったので2時間にと行い、今年の



刈り払いも無事に終了した。

## ■2021定例活動④

上ノ原でリトリート体験 ~ミズナラ林の間伐とキノコの駒打ち~ 報告<u>草野</u>洋

今年度はコロナ禍でこれまでまともな活動が出来ない日々が続いていたところ、9月に入り感染者数が激減し緊急事態宣言も解けたことで、10月2日、3日の行事は実施可能となった。そこで9月に予定されていたものの中止となったリトリート体験を、10月のミズナラ林整備と合体して実施することとなった。

リトリート(Retreat)とは、柳沼会員が在宅講座No. 2021・1 で紹介している通り、語源は、撤退・退去・隠れ家など、つまり、日常からの一時的なエスケープ。"立ち止まり"自分を見つめなおすという意味。大事な要素は「非日常」「体験」「振り返り」であり、今回は里山の自然体験によって眠っている五感や身体感覚を開放し、その際の気付きを言葉にする内省対話プログラムである。初日、上ノ原に集まった仲間は13人、2日目は移住組(初参加)の2人を加え15人が参加。

指導は、会員の井上さんと柳沼さん。これまで上ノ原でリトリートを何回か実施されている。二人から「ここにき



ていきなり涙ぐ む参加者がい る」ときいてびっ くり。都会に暮 らす人は過緊 張・過情報で疲 れ果て、コロナ 禍がそれに拍 車をかけている ようだ。期待は

いやが上にも高まる。

はじめに、芝草の上で車座になり、今日、ここで何を したいか「意図」を思い浮かべ、一人づつ発表する(写 真・上)。皆それぞれ思いを述べる。私は「秋の植物を 愛でる」を意図にした。そのあと、冥想して自分の身体 の感覚を観察するボディスキャン。大地と大空と自分を 繋ぐようなイメージ。冥想していると尾骶骨から根が生え、 つむじからジャックの豆の木が伸びていって空に繋がっ た感覚になった。このボディ(マインド)スキャンは使える。 首筋を上ノ原の風に撫でられてその心地よさに眠りそう

になる。近くの 虫の声も遠くの 音も拾う。そし て、近くの森の 中に入り自分が 気に入った木 によりかかるよう に言われその 場で冥想。此



がどうなってい るか、梢がどう なっているかス キャンする。

その後、それ ぞれが前と5m 以上の感覚を あけ、茅場を歩 いて柞の泉へ。 途中、解説や 説明はない。出





伐採で出来たギャップで意図を述べ合う

つめるための 孤独の境遇と 思いを超然と する"孤高の 人"の雰囲気 が求められる。

木馬道を回り 炭窯のところで 「これからはこ れまでで一番

気にいたっところで一人で過ごしてください」と言われ、 私は広場のリンドウのところでしばらく過ごす、が、じっと しておれない性格が災いして茅場の中を歩く。木の実 を拾うなど自分が一番したいことをして過ごした。

みんなが広場に集まると今日の成果、自分の変化を 言葉にするよう言われ夫々の発表の中に、「いつも作業 をやることばかり考えているがこんなのんびりした過ごし 方は新鮮」との感想があった。

2 日目も秋晴れの好天気、今日はミズナラ林で伐採 作業と組合あせたリトリートである。すでに何本か伐採さ れ、下層のササを刈った場所で瞑想。伐採で出来たギ ャップと樹木の更新の関係の中に自分を置き、芽生え・ 育つイメージをもつボディ(マインド)スキャン。そのあと、





少し移動して新米杣人の柳沼さんが北山塾長の指導を 受けながらミズナラをチェンソー伐採するデモンストレー ション。伐採されたミズナラをチェンソーで玉切する体験 に5人の強者が挑戦した。(写真・上)

この日は、キノコもの駒打ち体験も予定されてい たが時間がなく取りやめて、広場に帰り総括の感想 を述べあう。

ゆったりし た2日間を過 ごした「リト リート」とい うより「ユト リート」体験 に大満足。井 上さん、柳沼 さん、北山さ ん、素晴らし いプログラム を有難うござ いました。塾が



木洩れ日の中、感想を述べ合う。尾骶 骨が土の中に

整備してきた「ゆるぶの森」と茅場の新たな活用の 仕方が見つかった。作業を組み込んだ森林塾青水ら しい「リトリート」を今後展開できるように本格的 に取り組んで行きたい。





まだ幼いヤマアカガエル



アキノキリンソウ

# ■コロナ禍の中、今年も「在宅講座」を開講 五回にわたる講座の概要を紹介します

新型コロナウィルス感染症の蔓延防止の観点から、 森林塾青水では昨年に引き続き、野焼きを含め予定 していたプログラムを中止していました。その後、 10月から本格的な活動を再開しましたが、その間、 「楽習会」や「車座講座」に代えて、昨年同様会員 による「在宅講座」を五回実施しました。メール配 信のため会員・関係者全員に行き届いてませんので、 本通信でエッセンスをお伝えします。テキスト希望 の方は、事務局まで遠慮なくご連絡下さい。(稲) ※事務局連絡先(草野事務局長宅)

ファックス 043-375-1685 携帯電話 090-3390-8406

## ◆第1回「リトリートについて」

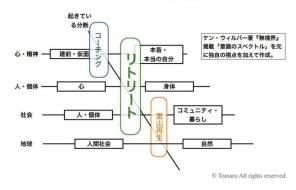
柳沼翔子・6月4日配信

柳沼会員は今年4月、自伐型林業に携わる地域おこ し協力隊として藤原に移住してきました。そのきっ かけが「リトリート」にあったとのこと。

リトリート(Retreat)とは、退去・撤退・隠れ家とい う意味ですが、建前と本音、心と身体、都市と自然 の関係など、分断に陥りやすい現代の暮らしの中で、 「止まる」ことの大切さを表現しています。そして 青水の井上昌樹会員と共に「Tomaru プロジェクト」 を立ち上げ、昨年からみなかみ町で活動を開始。10

## Tomaru's Approach

現実に起きてしまっている様々な分断に対して、私たちはコーチング・リトリー ト・里山再生といったアプローチで、Purposeの実現を目指しています。





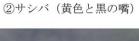
月2・3日の青水のプログラムでは、両会員の指導で 上ノ原を舞台に、実際にリトリート体験を実施した ところです(本紙2、3頁参照)。全10頁のテキス トを読むだけでも、リトリートを通して私たちも気 づかないでいた上ノ原の魅力が伝わってきます。

## ◆第2回「奥利根野鳥観察ルポ」

清水英毅・6月7日配信

清水顧問は、青水の藤原・上ノ原での活動を切り拓 いた謂わば創業者であり、首都圏在住会員の中で、 最も藤原を知りつくされた方ですが、今回、在宅講 座として「奥利根ルポ」を投稿いただきました。内 容は、清水顧問による埼玉県在住の野鳥大好き家族 の藤原案内記です。

旅程は今年5月7日、8 日の一泊二日で、平 出・師入・山口・上 ノ原・明川・湯の小 屋・奈良俣での野鳥 観察の様子が、臨床 感たっぷりの写真と ともに報告されてい ます。清水顧問の観 察によれば、七か所 の内では上ノ原、湯 の小屋界隈が野鳥の 観察ポイントとして は好環境とのこと。 この「奥利根ルポ」 を手に野鳥観察は如 何でしょうか。







## ◆第3回「自伐型林業について」

北山郁人・8月22日配信

現在、日本の林業政策は、スギの人工林を50年で伐 採し、また植林して50年で伐採するという、50年 サイクルが基本です。また、森林所有者と森林作業 者が分離していて、補助金も森林組合などの事業体 にしか支払われず、間伐施業も収益性が優先されて いるため、このままでは将来、資源としての価値も 乏しく、自然災害にも弱い森林ばかりになってしま う恐れがあります。その中で提案され、みなかみ町 でも推進されているのが、この「自伐型林業」です。 採算性と環境保全とが高い次元で両立する持続的な 森林経営であり、現在、「地方創成の鍵」として全国

に普及しつつあ ります。

具体的には小さ な重機(3 t)と チェーンソー、ト ラックがあれば 十分作業が可能



で、農業や観光業な どと組み合わせた副 業として期待されて います。みなかみ町 では複数の自伐型林 業のグループを中心 に、今年三月「みな かみ町森林活用協議 会」が立ち上がり、 ユネスコエコパーク の理念とも合致した 新しい林業への挑戦 が始まっています。



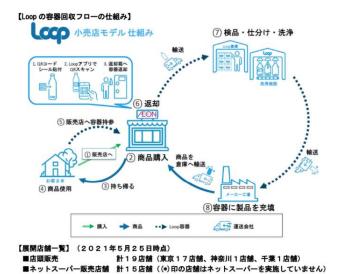
## ◆第4回「循環型プラットホームLoopについ て」~循環型社会への試みの紹介

松澤英喜・8月26日配信

青水の活動に支援を戴いているイオン環境財団の母 体である「イオン」が、商品容器の循環利用のため に取り組んでいる事業の紹介です。

「loop(ループ)」とは、米テラサイクルが開発した 新たな商品提供システムで、洗剤やシャンプーなど の消耗品や食品、商品のパッケージを、ステンレス やガラスなどの耐久性の高い容器に変えて繰り返し 利用することで、使い捨てプラスチックの消費量を 削減するものです。

考えて見れば、かつては牛乳もビールも瓶入りが普 通で、飲み終わったら回収するのが当たり前でした。 今のところ Loop の取り扱い店舗や商品は限られて いるようですが、こうした取り組みの趣旨が様々な 場面で行かされることが期待されます。



なお、空の容器は店頭に設置されている専用のボッ クスに返却して回収された後、検品・仕分け・洗浄 されてから工場で製品が充填され、再び商品として 販売され、購入時に支払った容器代は Loop 公式アプ リで経由で購入者に返金されるというシステムにな っています。

## ◆第5回「パーマカルチャーとは(その1)」 藤岡和子・9月11日配信

藤岡会員は、七年前に実施された藤原村おこしプロ ジェクト~そうだむさぁ~主催のワークショップ 「エネルギー自給大作戦」に参加しました。そのプ ログラムの一つ、古民家でのロケットストーブ作り にパーマカルチャーデザイナーの四井真治さんが講 師として参加していたのが、パーマカルチャーとの 出会いとのことです。その後、パーマカルチャーの 講習を受講するなど、パーマカルチャーへの理解と 実践を深めてきました。

パーマカルチャーという言葉は、

パーマネント(Parmanent) =永続性 アグリカルチャー(Agriculture) =農業 カルチャー(Culture) = 文化

の三つの言葉を組み合わせた造語で、創始者の一人 であるビルモリソンが、「パーマカルチャーはもとも と日本人の暮らしに根付いていた概念だ」と言って いたように、藤岡さんも青水の活動である入会の森 を守ることと、パーマカルチャーをこどもたちに伝 えることは「同じ道」であると言います。

パーマカルチャーには長い歴史がありますが、日本 でも四年前に静岡県にある市立中学校の総合教育に 導入されたことをきっかけに、学校教育の場でも少 しずつ広がっているとのことです。

パーマカルチャーの考え方は一見難しそうですが、 藤岡さんは17頁のテキストの中で、写真や自作の イラストでその概念をわかりやすく解説しています。 さわりだけ紹介すると、

人間が自ら自由を実現するための四つの倫理として、 <自己に対する配慮><人に対する配慮><地球 に対する配慮><余剰物の共有~分かち合い~>

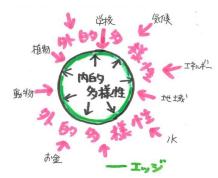


自己に対する配慮 マズローの5段階欲求

自然の中に存在する自らを永続可能にする仕組みを 表す四つの原則として、<循環性><多重性><多 **様性><合理性>**を掲げています。

(その2)の刊行 も楽しみです。

> 多様な環境が 生じる場を、パ ーマカルチャ ーではエッジ と呼ぶ



# 藤原だより-現地事務所報告-水源の舞茸

北山 郁人

上ノ原のミズナラ林の間伐材を中心に、みなかみ 町の森を整備した時に伐採したミズナラやコナラの 原木を使って、原木舞茸の栽培に挑戦しています。2 年近い時間をかけてようやく舞茸が収獲出来ました。



①秋にミズナラを伐採します。



②2月の寒い時期に15c mほどに玉切ったミズナ ラを水につけます。



③ひとつずつ専用の耐 熱のビニール袋に入れ ていきます。



④それを高圧釜に入れ5時 間ほど蒸気で殺菌します。



⑤冷えたら、雑菌が入らない ように素早く舞茸菌を植菌し て、シーラーで密閉し、1 年 ほど培養します。

通常、スーパーで売られている舞茸は、おが屑を 使った菌床栽培で、一年中生産されていますが、こ

の原木栽培の舞茸 は、直接丸太に舞 茸菌を植え付ける ことにより、天然 物に近い香りと味 わいを楽しむこと が出来ます。9月中 旬からの3週間程 度しか収穫が出来 ない貴重な舞茸で す。来年からは、 たくさん収獲でき る予定です。



⑥培養中



⑦翌春、十分に菌が木にまわり、完熟した物を 地面に伏せこみ土をかけます。



⑧9月中旬から舞茸が出始め、3 週間で収獲時期は終了します。 4~5年収穫できます。

## ■野守のつぶやき(21号)

~久方ぶりの再会に笑顔の輪ひろがる~

### ●コロナ規制解除後、初の水上行

・心のふるさとの原風景~久方ぶりの源流遡行の旅



10月2日。蓮田6:55発や 大宮や高崎や新前橋や水上着 10:38。すべて在来線普通 列車利用のんびり一人旅。 妙義、榛名、赤城の上毛三 山から沼田へと田園風景が ひろがる。



我らが坂東太郎利根川。 コロナどこ吹く風の滔々た る流れ。田んぼの稲架け風 景が懐かしく心和む。

残念ながら、谷川岳の雄 姿は又の機会となった。

## ●先ずは、十二神様と水汲み場の刈り払い



・11 時半、上ノ原に到着。 昼弁当拡げる前に、先ずは「十二神様」前の草刈り。 11 月に予定の"山の口終い"行事に備え、参詣道作りのつもり。

・次は、十郎太沢の水汲み場。そこで、「夢工房」の朝倉ご夫妻にバッタリ。かつて、ご寄贈いただいていた「水汲み乙女像」周りの草刈りにお出ましとの由。



これぞ、十二神様のお導きと盛り上がった次第!

#### ●皆が溶け込んだ異界"リトリート"

- "リトリート"という耳慣れない活動の試み、結果は「やってみて良かった」!
- ・参加者募集案内には「撤退」「一時的エスケープ」 「内省対話プログラム」など耳慣れない言葉が多く、どな た様も内心不安だったに違いない。



だが、インストラクターの 指示に従い草原に寝そ べったり、樹木に寄りかか ったり、切り株に腰掛けた りしながら瞑想にふけっ ている内に皆さん様子が 変わってきた。

『何も作業しないの

は初めてだけど、こんなに気持ち良いことなんだ』とつぶやいたり、『大地と空がつながってる感じがする!』と

叫んだりし始めた。小生も 小鳥たちのさえづりに耳傾 けながら脚下照顧、来し方 行く末に想いを致した。

・日常から離れ、上ノ原という自然空間での内省 思考のひと時。各自、気付きや学び多きプログラムだったのでは。有資格インストラクターの井上さん柳沼さん共に当塾会員であり、上ノ原は永年みんなで磨き上げてきた自前の森林&草原セラピー空間。





だから、ますます磨きあげて看板プログラムに育て上げていきたいもの。

## ●上ノ原の妖精・竜胆たちとの再会



嬉しい出会いであった。広場近くのミズナラ林で3株も。 木馬道沿いでも見かけたとか。 コロナ禍で林内鎮まるうちに復活したか、あるいは十二神様のご加護あってか。感謝。

## ●もう一つの出会い ; 年齢性別出自、不明の猫。



家出?捨て猫?飼い主と死別して餌に困った? 猫語がしゃべれないからどうしようもないが、間もなく降雪。上の原には君を越冬させる包容力はないと思うのだけれど・・・。

## ●ところで、脚下照顧の結果は?

穂芒や 八十路の沙汰は 風まかせ

令和3年霜降 (青)



#### ~編集後記~

「茅風通信」64号をお届けします。

今年も新型コロナ感染症の影響で、首都圏在住の 会員が上ノ原で活動出来ない日々が続きました。 それでも、昨年に続いて企画した「在宅講座」は、 6月から5回配信することが出来ました。 そうした活動継続への意欲が通じたのか、9月に 入ると新規陽性者は専門家も首をかしげるほど急

減、10月から上ノ原での活動を再開しました。 当面は用心しながらになりますが、コロナ禍の中 で学んだことも活かしながら、チャレンジ精神を 忘れず前に進めたらいいなと思います。(稲)